【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	多久市立東原庠舎中央校
1 前年度 評価結果の概要	・教師の授業力は確実に向上している。この成果が、全国及び佐賀県学習状況調査の結果に数値として表れるよう、次年度も引き続き児童生徒の学力向上を図ることを重点目標としていきたい。
2 学校教育目標	夢に向かって生き生きと輝く児童生徒の育成－共に伸びゆく中央校をつくろう－
3 本年度の重点目標	**教師の授業力を向上させることによって、児童生徒の学力向上を図る。**

4 重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5 最終評価

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・PDCAサイクルを意識した職員共通実践を今年度も継続し、成果指標達成を目指す。		・		・		・	学習指導部
	○教育情報化とICT利活用	○授業や家庭でPCを活用した学習が楽しいと答える児童95%を目指す。	・より効果的な活用を目指し、研修を進め、利用する場面を増やす。		・		・		・	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や教育相談に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・道徳の授業を担任だけでなく学年持ち回りで実施。 ・児童生徒が強みを見つけやすくなるような教師の日常的な声掛け。		・		・		・	児童生徒指導部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ見逃しゼロ ○いじめの防止取組、事案対処について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・中央っ子アンケート・生活アンケートを毎月行い、各学級で「いじめ見逃しゼロ」を伝える。 ・県教委の「いじめ対応動画」を活用する。		・		・		・	
	○主体的に行動し、自分の夢や志に繋げようとする児童生徒の育成	○夢をもち、夢の実現に向けて「具体的に努力している」と答える児童生徒85%	・総合的な学習の時間でのキャリア教育を充実させ、将来について明るい見通しをもてるような授業を学年で取り組む。		・		・		・	
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	○「早寝・早起き・朝ごはん」が身に付いている児童生徒90%以上。 ○挨拶、返事、履物そろえがいつでもできる児童生徒90%以上。	・PTAと連携しながら家庭への啓発をする。 ・食育だよりの発行。 ・児童・生徒会活動を通して啓発し、意識を高めるように声掛けをする。		・		・		・	保健体育指導部
	○健やかな体の育成	○体力向上に意欲的に取り組む児童・生徒90%以上。	・1年～6年でのスポーツチャレンジへの参加促進。 ・7年～9年での外部人材（部活動指導員等）を活用した運動部活動の推進。		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議の効率化 ・定時退勤日の設定。 ・部活動休養日の設定。 ・学校閉庁日の設定。 ・電話対応時間帯の設定。		・		・		・	管理職
	○学びやすい、働きやすい環境づくり	○業務改善ができたと感じる教職員80%以上。	・業務改善について、教職員で話し合って整理し、スリム化を図る。		・		・		・	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○特別支援学級在籍児童生徒の進路選択に係る情報の共有と拡充 ○学校教育支援員の専門性向上	○特別支援学級担任と保護者への進路情報を理解し進路指導スキルが向上した教員90%以上。 ○専門性が向上した支援員90%以上。	・特別支援教育COによる面談や特別支援児童生徒の進路に関する研修会の実施。 ・支援員への研修会の実施。		・		・		・	児童生徒指導部
○家庭・地域との連携	○義務教育学校・コミュニティスクールとして児童・生徒の人間的自立を実現 ○自ら進んで挨拶ができる児童生徒の育成	○学校・家庭・地域が三位一体となって児童・生徒を育てていると感じる教職員・保護者80%以上。 ○自ら進んで挨拶ができると答える児童生徒70%以上。	・コミュニティスクール新聞(仮題)を定期的に発行し、学校・家庭・地域相互の理解促進や活動への啓発を行う。 ・地域の関係団体と連絡を密にし、連携を強化したり、人材バンクの整理を行う。 ・学校と家庭や地域が連携し、進んで挨拶ができる児童生徒の育成を図る。		・		・		・	研修部

●…県共通　○…学校独自　◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・